



報道機関 各位

記者発表資料

令和4年5月6日（金）

問い合わせ先：文化政策室

室長：吉田

担当：吉田(英)・荒川・近藤・清水

電話：829-1225

内線：2819

「さいたま国際芸術祭2023」

ディレクター・現代アートチーム目 [mé]への委嘱状交付式を行いました
～「アートので市民がわくわくするような芸術祭に」～

令和5年に開催予定の「さいたま国際芸術祭2023」。そのディレクターに就任した現代アートチーム・目 [mé]のメンバーに対して、4月22日にさいたま市役所市長室にて、市長（さいたま国際芸術祭実行委員会会長）から委嘱状が交付されました。

目 [mé]は、アーティスト・荒神明香、ディレクター・南川憲二、インストレーター・増井宏文を中心とする現代アートチームで、埼玉を拠点に10年以上創作活動を続けています。国内外で広く作品を発表し、その活動が注目を集めている中、「さいたまトリエンナーレ2016」でも作品を発表。今回はディレクターとして、さいたま国際芸術祭に参加していただくことになりました。



▲「さいたま国際芸術祭2023」ディレクター委嘱状交付式
左から増井宏文氏、荒神明香氏、市長、南川憲二氏、プロデューサーの芹沢高志氏

市長からは、「ずっと埼玉で活動を行っている目 [mé]の皆さんは私たちも誇りであり、今回のディレクター就任を本当に嬉しく思っている。さいたま国際芸術祭は市民参加型をコンセプトにしており、市民の皆さんの理解や参加、評価という原点を忘れずに、アートで市民がわくわくするような芸術祭にしていきたい。」と期待が寄せられました。



▲タイトル:Elemental Detection 制作:2016年
さいたまトリエンナーレ 2016 参加作品

一方、目 [mé]のメンバーからは、「ほとんどの作品は、埼玉の景色の中で構想して生まれており、そこに宿っている感性をどうにか形にしたい。メンバーの知識や経験を最大限に振り絞り、市民参加型の芸術祭として、世界を自分に引き寄せて実感していただける芸術祭にしていきたい。」と意気込みが語られました。

その後、芸術祭のボランティア活動を行うサポーターのミーティングに目 [mé]のメンバーも参加。「さいたまトリエンナーレ2016」以来の再会に、会場からは喜びの声が上がりました。目 [mé]をディレクターに迎えた新たな芸術祭に向けて、サポーターから熱い思いが語られるなど活発な交流が行われ、市民と一体となって盛り上がりを見せました。



▲新たな文化芸術発信の場・RaiBoC Hallにて
目 [mé]のメンバーとともにサポーターミーティングを開催

現在、目 [mé]のメンバーを中心に、「さいたま国際芸術祭2023」のテーマ・コンセプトを含めた開催計画の策定と、ロゴマークの作成やWEBサイトの設計など広報・プロモーション計画の策定を行っています。

詳細は決まり次第、随時お知らせしますので、是非ご期待ください。

※記事の掲載にあたり、委嘱状交付式の画像・プロフィール・ポートレート・作品画像等が必要な場合は、「問い合わせ先」までご連絡ください。